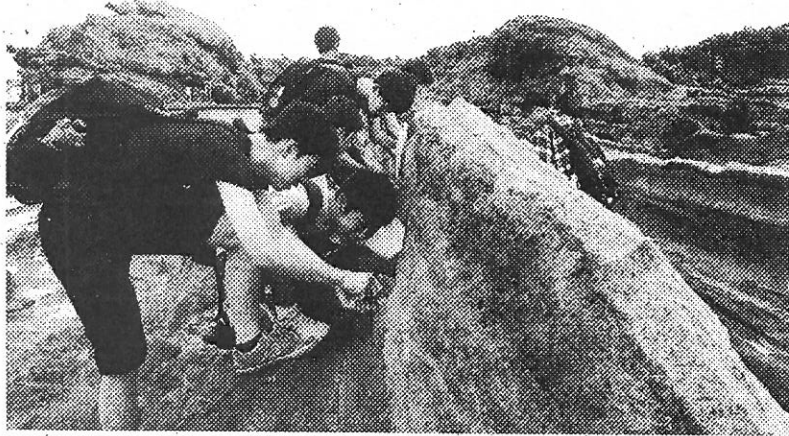


理数の楽しさ現場から

所沢北高生が臨海学習



臨海実習の一環で行った地質巡回の様子―神奈川県三崎町(所沢北高提供)

校外体験を通じて理数系の楽しさを知ってもらおうと、所沢市の県立所沢北高校(利根川太郎校長)は、同校理数科の生徒らを対象に、県外で臨海学習と大学での実験実習を行った。夏休みを利用した取り組みで、同校は「将来自分が進みたいと思う道への視野が広がれば」と期待している。

所沢北高校は本年度から理数科を新設し、41人(男34人、女7人)が在籍している。臨海学習は理数系の生徒全員、実験実習は普通科も含めた希望者が対象。臨海学習は神奈

川県横須賀市や三崎町で、実験実習は茨城県つくば市の筑波大で、それぞれ1泊2日で実施した。

臨海学習の1日目は、生物学をテーマにウニの発生を観察する実験やウニの研究者のセミナーを実施。2日目は地質学をテーマに、地層を測定する機器「クリノメーター」を使用しながら地質観察を行った。

筑波大での実験実習では、所沢北高出身の筑波大生から大学生活について話を聞いたのち、実験室で植物の色素を抽出・分離する実験や機器を

専門機器を使って実験をする生徒たち―茨城県つくば市の筑波大実験室(所沢北高提供)



使用してDNAを分ける実験を実施した。

今後も所沢北高校は理数科の生徒に対し、所沢市の早稲田大学所沢キャンパスと連携したイベントなどを予定している。企画・運営に携わる同校教員は「数ある可能性を生徒に提供し続けたい」と話していた。

(勇有花子)